

演題 45. 当院における日当直時の輸血業務の現状

○矢萩直樹（千葉市立青葉病院）

【はじめに】当院は2003年5月の新築移転した21診療科380床を有する地域中核病院である。救急部が新設され救急医療への対応の強化、血液疾患、感染症など特殊専門医療にも対応している。移転を機に臨床検査科で輸血関連業務の24時間一元管理を始めた。開院から4年半経過し輸血の日当直業務量の推移を調査し、問題点と対策を述べる。【概要】検査技師1名が輪番制で日当直業務を行っている。週3日外科二次救急の当番日があり通常と異なる勤務体制を布いている。【実績】日当直時に依頼のあった血液型・不規則抗体スクリーニングの件数は2003年度490件、2006年度445件、輸血依頼の件数は2003年度756件、2006年度589件であった。また、年間総件数に対する割合は、血液型・不規則抗体スクリーニングは2003年度10.3%（490/4738件）2006年度8.0%（445/5559件）、輸血依頼は2003年度15.3%（756/4950件）、2006年度12.3%（589/4282件）を占めていた。この他に日直時には血液内科などの予定輸血の入出庫業務がある。【まとめ】開院以来4年半幸いにも現在までに大きな輸血過誤は発生していない。日当直時の輸血依頼件数が減少し時間内に依頼されるようになった。しかし、輸血業務は製剤管理からType&Screen、超緊急時にはO型RCCの出庫、緊急度に応じて検査方法を変更するなど多種多様な対応を求められる。さらに予定輸血の入出庫業務、翌日以降の緊急ではない依頼にも対応しなければならず月2～3回程度しか関わらない不慣れな日当直者には負担になっている。今後は出来る限り通常時間帯で輸血を依頼・実施するような体制と迅速検査に対するマニュアルの再整備が必要と思われる。また、今後の課題として1名体制では危機的少量出血に対応できないためバックアップ体制についても考慮していかなければならない。